

千代水地区公民館

事業名	子どもと大人のふれあい事業「鳥取地方気象台へ行こう！」
日時	2015年7月29日(水) 9:30~12:00
参加人数	小学生 19名 大人 2名
目的	自然災害から皆の大切な命を守り、暮らしを支える天気予報が出来上がるまでの過程と重要性を理解し、夏休みの現地学習として企画した。
事業概要	<p>公民館からバスに乗り、鳥取市吉方町にある現地に向かった。まず3階の部屋で次長から予備知識としてパワーポイントで説明を受けた。その後2班に分かれ、各機器が設置してある屋外・現業室・屋上を見学した。</p> <p>屋外では、「結氷」「露場」「雨量計」「雪積深測」「温度計」「湿度計」など様々な道具を使い計測している。子どもたちは珍しい機器に興味津々だった。現業室では、普段立ち入る事のできない仕事場を見学した。モニターがたくさんあったが、職員の数はいくつかこの部屋では2人の職員が365日24時間作業しているということだった。屋上には、大きな測風塔や測風計・日照計があり、現在の天気を決める時は、空にどれだけの割合で青空や雲があるかで判断をするなどの説明を受けた。機械ばかりではなく、人の判断も気象には必要だと知った。</p> <p>その後、3階に全員集まり再度パワーポイントで補足説明を受けた。多勢の職員たちが背後で見守る中、最後は子どもたちが元気よく質問をした。「竜巻はどうやってできるのですか?」「測風計などの値段はいくらですか?」などを聞き、真剣な顔で説明に耳を傾けていた。</p>
所見	鳥取地方気象台職員達は子どもたちへの説明に慣れており、親しみやすく、分かりやすい対応で興味を引き付けた。各部所で専門職員から丁寧な説明を聞くことで、気象に興味を持ったり、働く大人への関心を持ったにちがいない。



< 屋上で空の状況観察の説明の様子 >



< 3階の現業室の様子 >